

4 部門別県指針採用農薬一覧表の利用上の注意

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
アクセルフロアブル	さといも	ハスモンヨトウ	シーファイン1000倍、アプローチBI2000倍混用薬害なし	26
	かんしょ	ハスモンヨトウ	老齢幼虫に効果あり	27
アグロケア水和剤	ミニトマト	灰色かび病 うどんこ病 葉かび病	ダイコート加用 アニキ乳剤混用	22
アトラクトン粒剤	飼料用イネ	カメムシ類	ミミツカで箱施薬し薬害なし	26
アニキ乳剤	いちご	ハスモンヨトウ	パンチョTF顆粒水和剤2,000倍混用 ルビゲン水和剤4,000倍まくぴか加用	22
	かんきつ	チャノキイロアザミウマ ミカンハモグリガ アゲハ類	キンカンのハナアザミウマの同時防除可能 キンカンのミカンキイロアザミウマには効果なし	22
アフエットフロアブル	いちご	うどんこ病、 灰色かび病	まくぴか加用	22
	ミニトマト	葉かび病、 灰色かび病、 菌核病、うどんこ病	クミテン加用	22
	ナス	すすかび病、 灰色かび病、 菌核病、うどんこ病	ジャストミート顆粒水和剤2,500倍 ダントツ水溶剤2,500倍混用	22
	メロン	うどんこ病	クミテン加用	22
	ピーマン	うどんこ病、灰色かび病	ニーズ加用薬害なし	21
嵐スタークル粒剤	水稻	いもち病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	薬剤耐性菌の発生を助長しないよう、他のストロビルリン（メトキシアクリレート）系剤とあわせて、同系統の剤は年1回の使用に止めること。	20
アルバリン顆粒水溶剤	マンゴー	チャノキイロアザミウマ	防除効果が低下したアザミウマの個体群が一部の地域に発生しているのて、使用にあたっては異なる系統の薬剤とローテーションで使用するこ	20
イモチエースキラップ粒剤	水稻	いもち病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） ウンカ類 カメムシ類	薬剤耐性菌の発生を助長しないよう、他のストロビルリン（メトキシアクリレート）系剤とあわせて、同系統の剤は年1回の使用に止めること。	20

参考資料

前ページより

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
インプレッションクリア	ピーマン	うどんこ病	チェス顆粒水和剤5000倍とゴッツA1000倍の3剤混用薬害なし	27
	スナップエンドウ	灰色かび病	クミテン加用薬害なし	26
	ミニトマト	うどんこ病	すすかび病の同時防除	26
エコピタ液剤	きゅうり	うどんこ病	高温時薬害注意	19
	きゅうり	ワタアブラムシ	高温時薬害注意	20
エコホープD J	水稻	ばか苗病 もみ枯れ細菌病 苗立枯細菌病 褐条病、いもち病、苗立枯病（リゾプス菌）	生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	20
エトフィンフロアブル	きゅうり	べと病	パンチョTF顆粒水和剤2000倍、カンタスドライフロアブル1500と3種混合薬害なし	26
			ベストガード水溶剤1000倍、マイコタール1000倍、パフルグリーン1000倍、アジフォル1000倍と同時混用薬害なし	26
	はくさい	べと病	クミテン混用、ランネート45DF1000倍、パワフルグリーン1000倍と同時混用薬害なし	26
エバーゴルフフォルテ箱粒剤	水稻	ウンカ類	トビイロウンカには効果がないため、早植えするみ系358等には有効	27
オンリーワンフロアブル	しょうが	白星病	トレボン乳剤1000倍混用薬害なし	27
ガッテン乳剤	きゅうり	うどんこ病	初発時に使用すること。	25
カンタスドライフロアブル	ピーマン	灰色かび病	薬害に注意し、他剤との混用はさけること。	19
カンパネラ水和剤	トマト	疫病	まくびか10,000倍混用薬害なし	26
キラップフロアブル	大豆	カメムシ類	キヨミドリ（青ダイズ）、フクユタカとも薬害なし	22
キルパー	トマト	古株枯死 ネコブセンチュウ蔓延防止	栽培終了時のかん水チューブを利用した灌注処理の効果は高いが、かん水チューブから離れた場所からは線虫が検出されるので、灌注位置の調整や追加が望ましい。	26

参考資料

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
キルパー	ピーマン	古株枯死	処理後の晴天など吸液させる条件が必要	27
クリアオール水和剤	ピーマン	ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ アブラムシ類	トップジンM水和剤4,000倍混用 ヒラズハナアザミウマが同時防除可能	22
クロピクフロー	ピーマン	青枯病	気温が低い場合にはガス抜けが悪いことがあるので、十分にガス抜け期間をおく。	20
ゴウワンLジャンボ	水稻	移植後1日～10月2葉期 但し、移植後30日まで他	十分な水深（5cm程度とする）	20
コサイド3000	かんきつ	かいよう病 黒点病	クレフノン200倍加用 バイカルティ1000倍加用	22
ゴッツA	野菜類 (トマト・ミニトマト・きゅうり)	コナジラミ類	ミニトマト：スカッシュ加用 薬害なし	21
ゴヨウダジャンボ	水稻	移植後3日～10月2葉期 ただし、移植後30日まで	十分な水深（5cm程度とする）	20
コルト顆粒水和剤	きゅうり	アブラムシ類・コナジラミ類	摘心栽培キュウリにおいてスワルスキーカブリダニ（紙コップ放飼）に対して、クミテン7,000倍加用の散布で影響なし。	26
サンクリスタル乳剤	トマト	コナジラミ類	高温時薬害注意	20
	ミニトマト	コナジラミ類	高温時薬害注意	20
	ズッキーニ	うどんこ病	高温時薬害注意	20
ザンプロDMフロアブル	ばれいしょ	疫病	フォリオゴールドとの併用	27
シグナムWDG	ピーマン	うどんこ病	アファーム乳剤2000倍、葉面散布肥料パワフルグリーン1000倍、スカッシュ2000倍混用、薬害なし。	26
	ミニトマト	葉かび病	クミテン加用	26
ジャックポット顆粒水和剤	キャベツ	コナガ、アオムシ、ハスモンヨトリ	害虫が摂食して殺虫効果が發揮されるため、結球開始前までの使用とするなど、商品部分の食害に注意すること。	24
ジャストフィットフロアブル	たまねぎ	べと病	マイノール5,000倍加用薬害なし	26
ショウリョクジャンボ	水稻	移植直後～10月2葉期 ただし、移植後30日まで	十分な水深（5cm程度とする）	20

参考資料

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
スクミハンター	水稲	スクミリンゴカイ	水温等、ほ場条件によって効果に差を生じやすいので、使用上の注意事項に十分留意すること。	25
スターマイトフロアブル	かんきつ	ミカンハダニ	オリオン水和剤40混用薬害なし	21
スーパーいきいき	きゅうり	残さ分解	分解期間の水管理が重要	26
ダニゲッターフロアブル	茶	チャトゲコナジラミ	若齢幼虫に使用すること	27
ダニサラバフロアブル	かんきつ	ミカンハダニ	防除効果が低下した個体群が一部の地域に発生しているのて、使用にあたっては異なる系統の薬剤とローテーションで使用する	20
タフブロック	水稲	ばか苗病 いもち病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病	生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	20
ダントツ水溶剤	マンゴー	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	防除効果が低下したアザミウマの個体群が一部の地域に発生しているのて、使用にあたっては異なる系統の薬剤とローテーションで使用する	20
ディアナSC	ミニトマト	コナジラミ類	セイヨウオオマルハナバチの放飼は、散布後3日あけること。	24
デュアルゴールド	かんしょ	一年生雑草	茎葉処理剤と併用	24
テラガードLジャンボ	水稲	移植後3日～収穫前2.5葉期 但し、移植後30日まで	十分な水深（5cm程度とする）	20
トライフロアブル	水稲	いもち病	苗にかん注しない。育苗期使用で薬害発生例あり。育苗期での使用は最小限とし散布量が過多にならないように注意。	26
ナリアWDG	かき	うどんこ病 炭疽病、落葉病	パダン水溶剤との混用で薬害事例あり	22
パイレーツ粒剤	ピーマン	アザミウマ類	スワルスキーカブリダニ等の他の防除法との体系化が必要。	26
			施用後の土壌水分維持が必要。スワルスキーカブリダニなどと併用が必要。	26
ハスモン天敵	いちご	ハスモンヨトウ	生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	20
バリアード顆粒水和剤	きゅうり	アブラムシ類	新リノー加用薬害なし	21
バリュースターフロアブル	かんきつ	ミカンハダニ サビダニ類	日向夏：ペンコゼブ混用薬害なし	21
バルミノフロアブル	きゅうり	うどんこ病	クミテン5000倍混用で薬害なし	27

参考資料

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
バロックフロアブル	マンゴー	ハダニ類	果実肥大初期で薬害なし	21
ヒエクリーンバサグラン粒剤	水稻	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	ごく浅水状態で処理する	20
ピクシオD F	ミニトマト	灰色カビ病	スカッシュ1000倍混用薬害なし	26
ビームスタークル微粒剤F	水稻	いもち病、ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ	専用の散布機（ホース）を使用すること。	25
ファルコンエースフロアブル	キャベツ	コナガアオムシ ハスモンヨトウ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	ミックスパワー クミテン加用薬害なし	21
ファンタジスタ顆粒水和剤	茶	輪斑病、炭疽病、新梢枯死症	同一系統（ストロビルリン系）薬剤との連用は避けること。	25
フェルテラチェス箱粒剤	飼料用イネ	ウンカ類・コブノメイガ等	ミキムカで箱施薬し薬害なし 防除対象とするチョウ目害虫はコブノメイガに限る。	26
フェルテラ箱粒剤	飼料用イネ	コブノメイガ等	ミキムカで箱施薬し薬害なし 防除対象とするチョウ目害虫はコブノメイガに限る。	26
ブリロッソ粒剤	きゅうり	アブラムシ類	オリゼメート粒剤の植穴処理と併用して薬害なし	27
ブルートMC	茶	クシロカイガラムシ	使用が制限される地域がある。	20
プレオフロアブル	きゅうり	ハモグリバエ類	ミックスパワー加用薬害なし	21
プレバソンフロアブル5	ピーマン	オオタバコガ	クミテン10000倍混用薬害なし	26
プロポーズ顆粒水和剤	メロン	べと病、つる枯病	クミテン加用 サンマイトフロアブル1,000倍・ベストⅡ混用	22
	たまねぎ	べと病 白色えき病	ミックスパワー加用	22
フロンサイドSC	いちご	炭疽病	かぶれに注意すること。	24
分解ヘルパー	きゅうり	残さ分解	分解期間の水管理が重要	26
ベジキーパー水和剤	キャベツ	黒腐病	汚れが発生するので、刈り捨て時等の商品性に影響のないときに使用すること。 生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	19
	レタス	腐敗病	汚れが発生するので、収穫寸前の処理には注意すること。 生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	20

参考資料

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
ベトファイター顆粒水和剤	トマト ミニトマト	疫病	スカッシュ加用 マルハナバチ影響なし	22
ベネセット水和剤	トマト	疫病	まくぴか10,000倍混用薬害なし	
ベネビアOD	トマト	コナジラミ類	ウイルスベクター対策としては成虫を防除できる剤との体系化が必要	27
ベリマークSC	きゅうり	コナジラミ類	400倍、25ml / 株灌注で生育遅延事例あり	26
ベンレート水和剤	いちご	炭疽病 萎黄病	8 / 21, 9 / 6の育苗期処理で薬害無し	21
ボタニガードES	マンゴー	マンゴーの各生育期における薬害の有無について詳しく調査を希望	幼果期以降果実に薬害あり。	22
ボトピカ水和剤	野菜類	灰色かび病	治療効果は低いので予防的使用に努める。生物農薬であるので、他剤との混用等取り扱いには注意すること。	19
まくぴか	野菜類	殺菌剤・殺虫剤	アミスター20フロアブル2,000倍に加用	22
マスタピース水和剤	ミニトマト	軟腐病	まくぴか混用薬害なし	26
モベントフロアブル	いちご	アザミウマ類	スカッシュ3000倍混用で薬害なし。	26
	いちご	ハダニ類	育苗後期など株が大きい場合には効果が低いことがある。	26
	トマト	コナジラミ類	ダコニール1000加用の散布で薬害なし。 コナジラミ多発時の散布は防除効果は劣る。	26
			定植時の灌注処理は薬量の計量が難しく、特にセル苗ではオーバーフローにより灌注できないことがある。 1000倍液50mlの定植時株元処理では、定植27日後にクロマルハナバチへの影響なし。	26
	トマト	アザミウマ類他	定植時の灌注処理は薬量の計量が難しく、灌注方法の検討が必要。	26
	きゅうり	アザミウマ類	ロブラール水和剤、プロポーズ顆粒水和剤混用薬害なし	26
ライメイフロアブル	ブドウ	べと病	スミチオン乳剤混用	22
	ばれいしょ	疫病	クミテン加用薬害なし	21
ラウンドアップマックスロード	果樹類	収穫前7日（雑草生育期）	マルバツユクサを対象とする場合は、後再生を防止するために開花前の散布を実施する。	20

参考資料

展示農薬名	作物名	対象病虫害等	利用上の注意点等	年度
ラブマットU	いちご	底面吸水	マットと苗の間に隙間が生じないような管理が必要。また、収納時にコケ対策が必要。	26
ラリー水和剤	ミニトマト	うどんこ病	バイノアミノX300倍混用薬害なし	26
ラリー乳剤	トマト	葉かび病	コルト顆粒水和剤4000倍と混用可能	26
リーズン顆粒水和剤	かんきつ	チャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ	ハナアザミウマの同時防除が可能。	22
レーバスフロアブル	トマト	疫病	クミテン加用 マルハナバチ影響なし	22
	いちご	イチゴ疫病	ムシラップ500倍混用薬害なし	27
ルミビアFS	飼料用とうもろこし	ツマジロクサヨトウ	連続的な飛来がみられることと、残効が最大でも21日であるので、初期での発生がみられた場合は、次の防除も必要	令和6
ロムダンフロアブル	マンゴー	ドクガ類 ハマキムシ類	幼果期で薬害なし	21
ナエファインフロアブル	水稲	稲（育苗箱）の 苗立枯病	緑化期処理による防除効果 確認による掲載。	30